

旭川大橋の工事って何をやっているんだろう？

～耐震補強工事の様子をお伝えします～

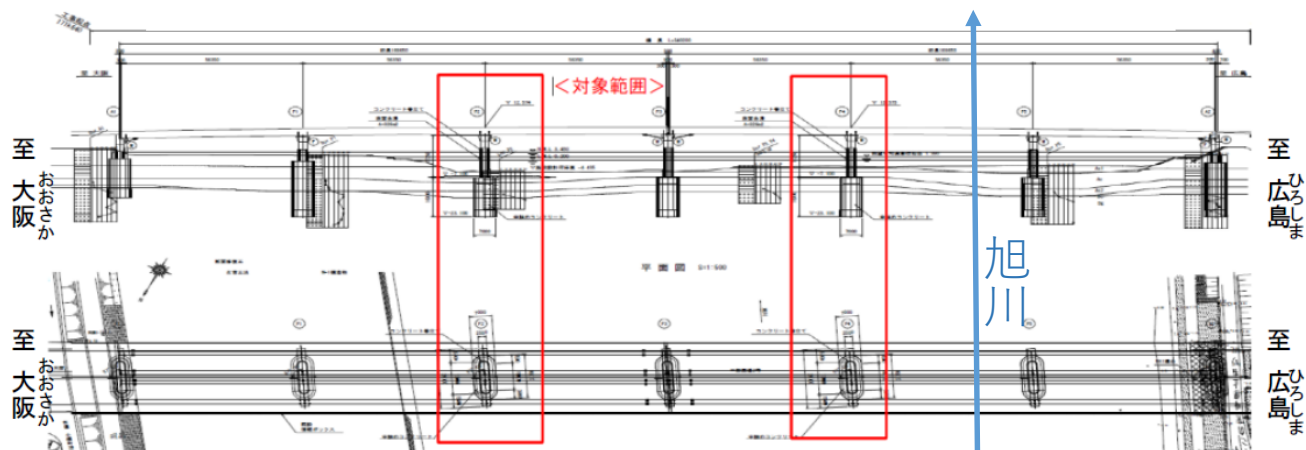
令和7年1月24日



岡山県中央部に位置する一級河川旭川に架かる一般国道2号旭川大橋は、中四国において最大級の一日約10万台の交通量を担う非常に重要な橋梁です。

その旭川大橋では、大きな地震が起きてもわずかな損傷に留まり、避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動のための緊急車両の通行確保など、道路としての機能を速やかに回復出来るように、現在、耐震補強工事を行っています。





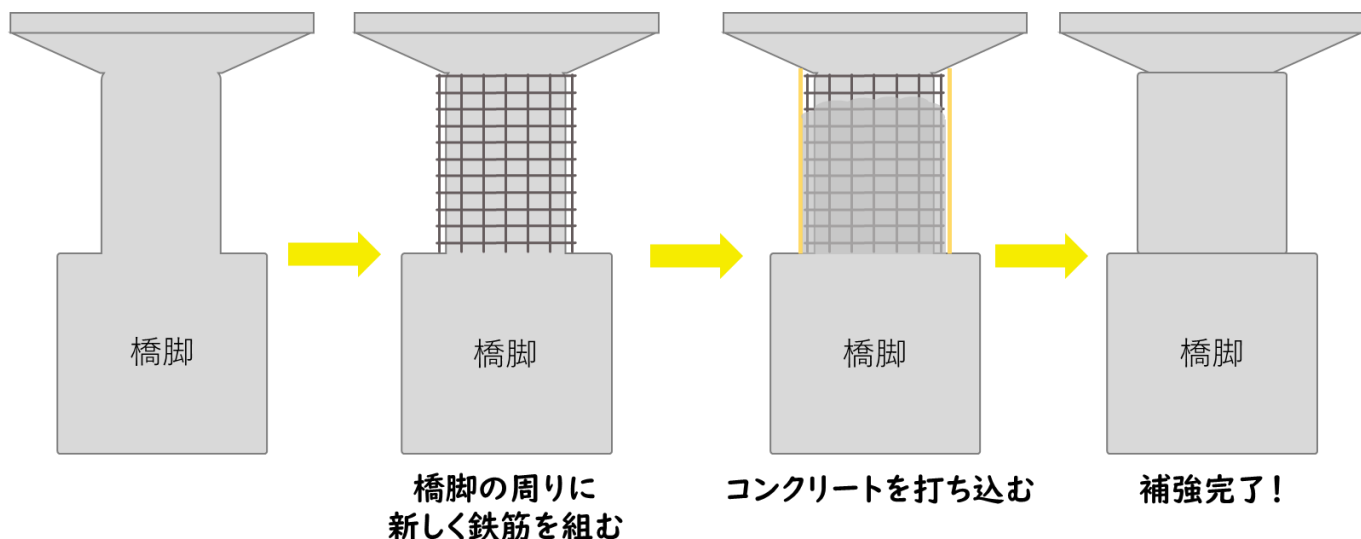
平成30年度から工事を開始していて、今年度は最後の2つの橋脚の耐震補強工事を行っており、今年度中に旭川大橋全体の耐震補強工事が完了する予定です。



写真の赤枠で囲った部分が橋脚です。こちらの橋脚はすでに補強済みです。

旭川大橋で行っている耐震補強工事は、橋脚をコンクリートで巻き立てる工事を行っています。

これは現在の橋脚の周りに、新たに鉄筋を組んでコンクリートを打ち込み、橋脚を太く補強することで、地震に対して強くするものです。



巻き立ては元の太さにプラスして25cmで行っています。
下の写真の左側は巻き立て前、右側は巻き立て後です。
少し太くなっているのが分かりますね。



巻き立て前



巻き立て後

旭川大橋は旭川の中にあるので、工事を行う期間に制限があります。

理由は梅雨や台風などの集中豪雨で川の水が増水する時期を避けるためです。この川の水が増水する時期を「**出水期**」と言います。

旭川の出水期は「6月15日～10月15日まで」のため、その時期以外の期間で、足場の設置など工事の準備から実際の巻き立て工事を行い、さらに足場を撤去するまでの一連の作業を全て行わなければなりません。



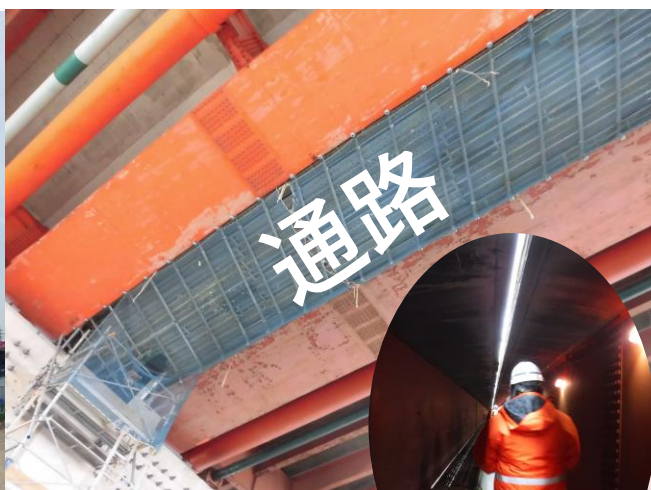
旭川のシンボルマーク

かなりシビアな工程管理が求められます。

この他にも仮設物の構造など河川法上の制限が色々あります。



階段



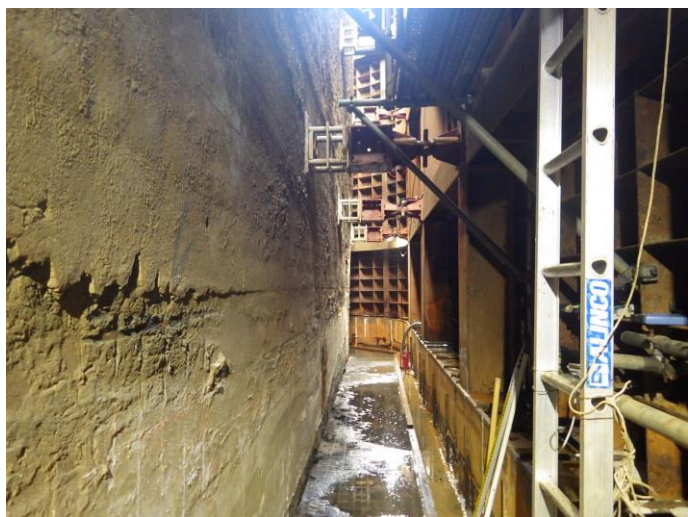
通路

通路を歩いている様子

今回の現場は、河川敷側にある橋脚に設置された足場を登って、橋桁に設置された通路を通り、川の中の橋脚まで移動しました。



工事が行われている橋脚です。



締切工（鉄板）の中

橋脚は川の中にあるので、そのままでは鉄筋を組み立てることができません。

そのためまずは橋脚の周りを締切工（鉄板）で囲って水を抜く作業が必要となります。

上の写真の赤で囲った部分はその締切工です。



既に水は抜かれていて、コンクリートを打つための鉄筋が組まれていました。



締切工（鉄板）の中へ降りてみました。

赤枠内の小さな入口から降りていきます。

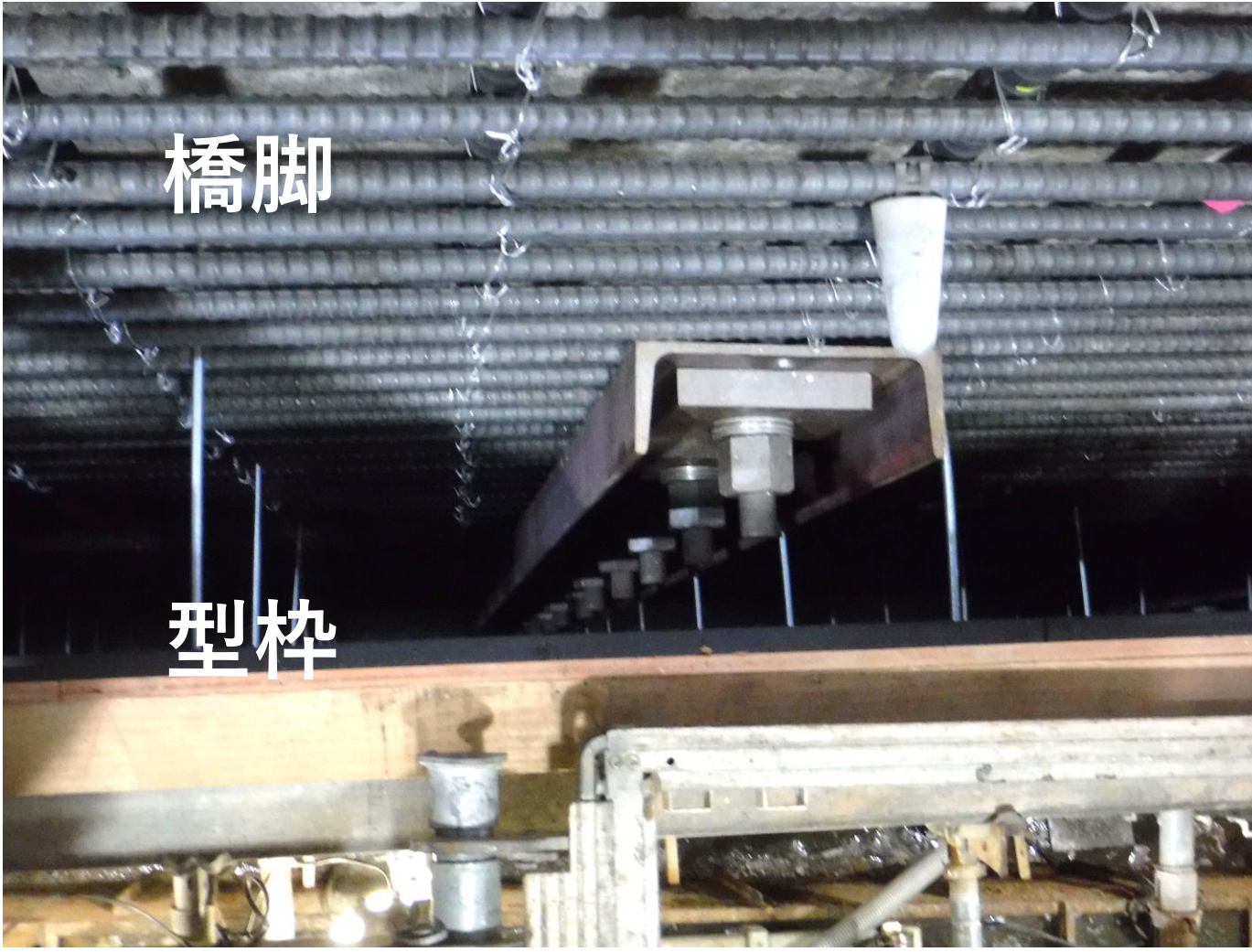


締切工（鉄板）から橋脚までの間は1.5m程しかありません。

作業員の方は狭い作業幅の中で、鉄筋を組む等の作業を行っています。



鉄筋をよく見ると、鉄筋同士がズレないように、針金で固定されているのが分かります。



橋脚

型枠

コンクリートを打つための型枠を組み、コンクリートを打設していきます。

既に橋脚の下側に型枠が設置されています。

何段階かに分けてコンクリートを打設していきます。

おまけ



作業ヤードは川に浮かんでいます。

汽水域のため干満など水位によって上下します。

